

さいたま市立内谷中学校



教育目標 ・進んで学ぶ ・心豊か ・たくましく
令和6年8月28日

さわやか相談室 Tel 048-865-7573

〒336-0034 さいたま市南区内谷 6-10-1 Tel 048-861-7571 <http://uchiya-j.saitama-city.ed.jp>

やり続ける（持続可能）

校長 高山 俊介

全国の7月の平均気温が、気象庁の観測史上126年間で過去最高。また、その後も連続の猛暑日でとても暑かった夏休みの39日間でした。この日本だけに限らない世界的な気候変動により、開校43年間で初めて1学期に実施した体育祭では、熱中症対策として早朝からの開会及び半日開催など様々な工夫をしました。終業式も、空調設備のある各教室におけるオンライン実施としました。このように本校の行事と同じく、様々なスポーツ大会の持続可能な実施についての取組がみられた夏でした。さいたま市の夏季体育大会・野球、ソフトボールは、大会規程を改正して長期間の日程により午前中のみでの実施。日本の夏の風物詩である甲子園で開催される全国高等学校野球選手権大会でも、一部の日程で2部制を導入し、8月7日~9日の3日間は「午前の部」と「夕方の部」に分けて試合を行っています。

そして、夏開催のスポーツ大会というと4年に一度のスポーツ・平和の祭典「オリンピック・パラリンピック」です。パリ開催では、各競技の特性や国際理解を深めるだけでなく、公式スローガン「Games wide open（広く開かれた大会）」というテーマをもとに、街全土を競技舞台や開会式の場として開放したり、ジェンダーバランスを意識した種目の再編、ニュースポーツの導入などをしたりして、「革新」「サステイナブル（持続可能な）」を考えさせられる大会でした。国をあげてのセーヌ川（トライアスロン会場）の水質改善、陸上のトラックは地中海のムール貝の殻を再利用した紫色、選手村のベッドは段ボールで使用後は寄付され再利用されるなど感心させられました。

また、各国選手たちの熱いハートとパフォーマンスはとても格好がよいとともに、自分に厳しく、自分の愛する競技を極めようと挑戦する姿が美しく、魅了されました。挫折や怪我などによる絶望を乗り越え、画面越しに躍動しているオリンピックたちから感動や希望、一歩踏み出す勇気・スポーツのもつ力をもらうことが出来ました。卓球の銀メダリストの早田選手が利き手である左前腕を痛めながらも、回復に全力を注ぎ、粘り強く出せる力を試合で出し切って、帰国後にやりたいこと「アンパンマンミュージアムに行って、ポーチを作りたい」という発言に、壮絶な戦い、大きな重圧からの解放を垣間見ました。その発言から、さいたま観光大使「浦和うなこちゃん」（浦和駅前と別所沼公園に石像設置）をデザインするとともに、「アンパンマン」の生みの親である漫画家やなせたかしさんの言葉を思い出しました。「人生にムダなことは、何一つありません。全部自分の役に立つ、そして、やり続けることが大事」これは、漫画家として活動を始めた34歳の時から、雑誌の記者や舞台美術、脚本家などの様々な仕事をこなしながら、こつこつ漫画を描き続け、やっと70歳を超えて代表作を手に入れた故人だからこその金言です。

生徒の皆さん、各学年の1年間の教育活動で一番長い2学期が始まります。「考動」を心がけながらも何かやることに躊躇せず、一歩踏み出す勇気をもって様々なことに挑戦しましょう。そして、「継続は力なり」。根拠に基づき持続を可能にすることが、大きな成果・未来につながることでしょう。